

会議録

会議の名称	第1回宜野湾市振興計画審議会
開催の日時	令和2年9月29日（火） 開会：15時00分 閉会：17時00分
開催場所	宜野湾市役所 庁議室
出席委員 氏名	<p>◎瀬口 浩一（琉球大学 国際地域創造学部 教授） ○岩田 直子（沖縄国際大学総合文化学部 人間福祉学科教授） ・小野 尋子（琉球大学 工学部環境建設工学科 准教授） ・玉城 直美（沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 准教授） ・福里 清孝（宜野湾市商工会 会長） ・棚原 和明（宜野湾市認可保育園長会 選任） ・仲村 清（宜野湾市自治会長会 選任） ・仲村渠 満（宜野湾市社会福祉協議会 選任） ・大城 秀信（宜野湾市老人クラブ連合会 選任） ・宮里 弘美（市民公募枠） ・石川 正信（宜野湾市教育委員会 選任） ・前田 晋（株式会社沖縄銀行普天間支店 支店長） ・宇根 信明（日本労働組合総連合会沖縄県連合会連合沖縄中部地域協議会副議長） ・山内 一郎（FMぎのわん） ・野崎 聖子（うむやす法律会計事務所） ・安藤 陽（市企画部長）</p> <p>※◎は宜野湾市振興計画審議会会長、○は副会長を示す。</p>
欠席委員 氏名	・高里 健作（宜野湾市観光振興協会 会長）
事務局	《企画部企画政策課》 泉川次長、仲泊技幹、玉城係長、宮良担当技査、具志堅担当主査、大浜担当主査
会議内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事（進行：会長） (1) 第四次宜野湾市総合計画後期基本計画及び第二期宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について (2) 宜野湾市総合計画後期基本計画の評価について (3) 宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について (4) 後期基本計画等事務局案について</p> <p>3. 閉会</p>

会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第四次宜野湾市総合計画後期基本計画及び第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について ・資料2 第四次宜野湾市総合計画前期基本計画評価について ・資料3 宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価について ・資料4 第四次宜野湾市総合計画後期基本計画及び第二期宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略（事務局案）について ・参考資料1 第四次宜野湾市総合計画（後期基本計画）諮問書 ・参考資料2 宜野湾市振興計画審議会規則 ・参考資料3 宜野湾市振興計画審議会 委員名簿
その他必要事項	

発言者	会議の過程（議題・発言内容・結論等）
事務局	これより、第1回宜野湾市振興計画審議会を開催する。 まず、配布資料の確認をさせていただく。 それでは、議事に入りたいと思う。議事については、会長に会議の進行をお願いしたい。
会長	それでは議事に入る。議事1「宜野湾市総合計画後期基本計画及び第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」、事務局より説明願いたい。
事務局	事務局より資料1に基づき説明。
会長	事務局より説明があったが、質疑・確認等はあるか。
委員	事務局からの説明を受け、どういう視点で意見を提出したらいいのか。今後、審議会がどのような流れで進んでいくのか教えてほしい。
事務局	資料P10で説明。 この第1回審議会では、委嘱と諮問を行う。今後内部の作業部会（次長級）で素案作成、策定委員会（部長級）で原案を作成し、第2回審議会にて委員から意見をいただき、事務局で調整し、第3回審議会を経て市長へ答申という流れ。
会長	その他、質疑等ないので、議事2「第四次宜野湾市総合計画前期基本計画の評価について」事務局より説明願いたい。
事務局	事務局より資料2に基づき説明。
委員	市民アンケートの回答率について、当初の回答率はどれくらい予定していたのか。

発言者	会議の過程（議題・発言内容・結論等）
事務局	統計学上3,000人中、501票あれば信憑性は高いとされており、527票の回答より有効であると考えます。
委員	市民アンケートはなぜ、全市民、全世帯対象ではなく、市民3,000人対象なのか。
事務局	全市民、全世帯を対象とする方法もあると思うが、昨年度コンサルとの調整の結果、3,000人対象と決定した。
委員	市民評価について、同じ項目でも極端に高い評価と低い評価があると思う。平均値をとった方が良いのでは。
事務局	極端な評価もあると思うが、全ての回答で平均値を取っている。
委員	市民アンケートの内容を受けて、総合計画策定につなげてほしい。
事務局	市民アンケートの内容を検証して、後期基本計画策定に反映していく。
委員	今回、P24の宜野湾市の総合計画とSDGs（持続可能な開発目標）は関連していて、2030年までに17のゴールの目標達成を掲げ、基本施策に繋げるためには各施策がSDGsのどこに該当するのか仕分けし、わかりやすく施策毎に整理している状況である。
委員	P27は行政内評価の結果による総括であり、市民アンケートの結果と行政内評価の全体的な総括を比較した総評はしているのか。P23と対応できるといいのでは。
事務局	P27資料2-4は行政内評価、P23資料2-2は市民アンケートの評価である。市民ニーズにあった重要度の高い評価と宜野湾市の行政内評価の検証は出来ていないので、今後検討していく。
会長	その他、質疑等ないようなので、議事3「宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」事務局より説明願いたい。
事務局	事務局より資料3に基づき説明。

発言者	会議の過程（議題・発言内容・結論等）
委員	本審議会では各委員に何を求めているのか。 P33の総合戦略の評価について、ABで約6割となっている。 計画策定方法だが、活動優先順位を決めるのか。必要性、順位、方向性どちらを優先するのか。
事務局	総合戦略については、第二期策定に向けて、第一期の評価をしつつ内容について担当課と調整し、庁内会議で原案を作成。それを踏まえて第2回審議会から議論していただきたい。
委員	各委員からの質問に対して、全て企画政策課で答えるのか。 また、P34産業政策課の産業育成の具体的なイメージ、魅力ある人材とは抽象的な表現ではないか。また基本目標とは何か。市民にわかりやすい言葉で表現できないか。
事務局	担当課より説明を受け、企画政策課で答えていく。 策定する際に、国の基本目標の分野を参考に宜野湾市はどう反映していくか検討し、今後令和3年の第二期総合戦略を策定していくにあたって、国と同じ分野で考えていく方向性で考えており、問題点や改善点など様々な意見を取り入れ、市民にとってわかりやすい言葉で表現していく。
委員	P23資料2より、予算は市民重要度と進捗状況によって配分しているのか。 単独費で行っている事業はあるのか。 また事業の進捗は低く、市民重要度は高い事業の場合は予算を多く配分するのか。
事務局	実施計画の中で担当課ヒアリングを行いながら、事業精査を行い予算を配分している。 単独費で行っている事業もある。 事業の進捗や重要度等を踏まえ、予算配分を行っていく。
委員	SDGsに紐付けしていくことはとても大事な事。日本は女性参画、若者参画が低い。現在、教育現場などを中心に若者のSDGs（持続可能な開発目標）の認知度が上がっている。 2030年以降、市民が自分事として社会を変えていくか考えいくことが大事で、重点的に選別し宣言していくと若者もわかりやすいのではないかと。
事務局	31の基本施策について後期基本計画においてSDGsの位置付けを行う。担当課と位置付けの調整をし、ゴールを設定していく。
会長	その他、質疑等ないので、議事4「第四次宜野湾市総合計画後期基本計画及び第二期宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略（事務局案）について」事務局より説明願いたい。
事務局	事務局より資料4に基づき説明。
委員	市民がわかりやすく、誰が読んでも同じく解釈できるようにしてほしい。 厦門留学生の現状は把握しているのか。帰国して何をしているのか、留学がどう活かされているのかなど。

発言者	会議の過程（議題・発言内容・結論等）
事務局	市民がわかりやすい表現にしていく。 厦門留学生については、これまでのネットワークなど活用し、現状を把握する。 市のイベント等での司会、企画報告会、選定委員会などの役割に参加している。
会長	他に質疑等はないか。
構成員一同	なし
会長	それではこれで質疑応答は終了する。
事務局	次回日程等を案内後、閉会する。